

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃ ようごうしゃ 株式会社 影向舎		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
制作団体所在地	〒 243-0005		
	神奈川県厚木市松枝1丁目4番7号		
電話番号	046-297-0255	FAX番号	046-297-0256
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじん ほうしょうかい 公益社団法人 宝生会		
代表者職・氏名	会長 錦織淳		
公演団体所在地	〒 113-0033		
	東京都文京区本郷1-5-9		
制作団体 設立年月	昭和60年3月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	(株)影向舎 小池岳士・小池将直 他	制作スタッフ:11名 舞台スタッフ:12名	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	中村真理子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池弘美

制作団体沿革

○株式会社 影向舎 《社是:「人と芸をつなぐ」 社訓:誠意・信念・正義》

学校公演において全国一位の公演数を有する製作者集団。昭和60年の創立以来、日々社是、社訓を見つめ直し“初めて鑑賞する人にどのように芸の魅力を伝えるか”このテーマを35年間に亘り追究、実施を繰り返し、今後も追い続ける。

創立当初は落語、狂言の公演活動から始まり、その後お客様のニーズに応えるべく日本の芸能である講談、能、邦楽、また演劇、京劇、オーケストラなどジャンルを増やしてきた。特に能楽公演においては、通常の学校公演に加え、過去には東京都主催「こども能チャレンジ」の制作業務の実績・経験を基に、趣向をこらした青少年向け能楽公演を実施。

どの芸能にしても単に出演者を右から左に動かすのではなく、企画制作から公演が終了するまでのトータルプランニングを行う。それぞれの舞台を充実させるため、社内では営業部・制作部・デザイン部・舞台部を機能的に編成。各部がひとつひとつの公演を成功させるべく、万全の状態でお客様をバックアップする体制を整えている。

現在では、年間公演数が600を超え、学校公演では業界随一の実績を更新し続けつつ、他に教育委員会、公文協、老人ホーム、TV、ラジオ、ホテル、国際交流基金や大使館主催などによる海外公演(平成27年6月・イタリアローマのパラディウム劇場に、影向舎の能舞台を輸出し、舞台設営・監督業務を兼ねて、狂言公演を実施)など多方面で公演活動を行っている。

●宝生会

能シテ方五流儀の中で、宗家を頂点として一流儀一家という結束力を誇る。現在の宗家は二十世・宝生和英(ほうしょう かずふさ)。35歳の若さを武器に進取的な取り組みで、これからの能の可能性を常に追求している。「体感する能」と称した、切り絵アーティストや映像クリエイターとのコラボ演出・公演は特筆に値し、今の人達に生きた能楽の魅力を発信し続けている。会を構成する能楽師は重鎮から若手まで層が厚く、宝生会がひとつとなって、その伝統と革新力で、精力的に能楽堂公演や子供向け企画などを行っている。

以下は主な宝生会と宝生能楽堂の歴史。

明治18年	松本金太郎が神田猿樂町に能舞台を建設
明治26年	舞台改装を機に宝生会定期能を開催
明治45年	社団法人組織となる(関東大震災にて焼失)
昭和3年	現在の文京区本郷(旧松平邸)に豪華な能楽堂を建設(昭和20年戦火にて焼失)
昭和25年	同場所に水道橋能楽堂として再建
昭和54年	現在の宝生能楽堂が建設され、現在に至る

宝生会と影向舎

当申請は、能楽界のトップランナーである宝生会と、学校公演の業界を長年牽引してきた影向舎が、その若さならではの新しい感覚と、長年に亘る公演実績を融合し企画した内容です。平成30年度の「文化芸術による子供の育成事業」ではEブロックにおいて22校、令和元年度の「文化芸術による子供育成総合事業」ではBブロックにおいて19校という、多くの公演実績を残してまいりました。また令和2年度(Fブロック)はコロナ禍で当初公演中止が相次ぐ状況において、宝生会出演者の協力により愛知県・東京都・山形県で追加公演を7校実施することができました。双方の総合力や演出力またネットワークなどの利点を十二分に発揮して、各地各校の児童・生徒の皆さんの若い心に、能楽の素晴らしさをお届けします。

【別添1をご参照ください】

学校等における 公演実績	○(株)影向舎 古典芸能分野では全国一の実績を誇る。 ・東京都主催による「こども能チャレンジ」の事務局を担当。 ・平成20年度・21年度「本物の舞台芸術体験事業」能楽分野にて参加。 ・平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」能楽分野にて参加。 ・平成23年度、平成24年度、平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」能楽分野にて参加。 ・平成30年度「文化芸術による子供の育成事業」能楽分野にて参加。 ・令和元年度、令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業」能楽分野にて参加。 ・令和2年度第3次補正予算「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」の学校による提案型、文化施設等活用型(水道橋宝生能楽堂)で14校の公演が決定。 ・平成21年度～令和3年度「北海道巡回小劇場」に13年度連続で参加。 ●(公社)宝生会 ・宝生会主催による「夏休み親子教室(旧称:夏休みこども仕舞教室)」を平成18年より毎年開催(文化庁「伝統文化親子教室」事業として参加)。今年で13年目を迎える。 ・山形県酒田市「庄内能楽館親子仕舞教室」を実施(平成28年～) ・公益社団法人能楽協会主催「キッズ伝統芸能体験」事業に参加 …講師(能楽師)派遣および稽古場、発表会(宝生能楽堂)の提供 ・「韓国青年訪日研修団」能楽体験教室、「東京国際フランス学園」能楽教室を開催 …型の体験、装束付け実演など ・各校修学旅行プログラム「能楽体験ワークショップ」を開催 過去実績:岐阜県可児市立広陵中学校、愛知県大府市立大府中学校、岐阜県垂井町立北中学校、岐阜県垂井町立不破中学校 「桐生市能楽教室」(桐生市内の小学校合同にて) …能楽囃子楽器の体験、舞と謡の体験、装束付けの実演など ・学生鑑賞会 過去実績:三田国際学園(旧:戸板学園)中学校、東京農大第一高校 …能、狂言の公演 平成26年・27年 ・港区キスポート財団主催「赤坂能ワークショップ」事業受託 ・港区立台場保育園、港区立麻布保育園、年長児に「猩々」謡の稽古、発表会への出演 ・公益財団法人日韓交流基金より対日理解促進交流プログラム(JENESYS2.0)事業を受託 平成28年 【JENESYS2015】韓国青年訪問団(高校生)第1・2・3団 【JENESYS2016】韓国教員訪日団 第1・2団実施 10月4日 開成高校能楽鑑賞会 11月18日 静岡県袋井小学校鑑賞会 12月19日 多摩高校能楽鑑賞会 平成29年 2月15日 韓国青年訪日団第10団 能楽ワークショップ 2月27日 慶応義塾横浜初等部 能楽鑑賞会 8月20日 文京区「みんなで楽しむ」能・プロジェクト」 平成30年 2月24日 慶応義塾横浜初等部 能楽鑑賞会 8月12日 文京区「みんなで楽しむ」能・プロジェクト」 平成31年・令和1年 2月14日 学習院中等科能楽鑑賞会 3月17日 墨田区能楽鑑賞ワークショップ 8月1日 ウィズダムアカデミー運営の学童保育の育成時間で能楽体験 (幼稚園児から小学生児童約100名) 令和3年9～10月 文京区主催の区内中学校(10校)の合同能楽鑑賞会【会場:宝生能楽堂】を実施予定
-------------------------	---

特別支援学校における公演実績	平成22年12月2日(木) 埼玉県立本庄特別支援学校にて公演 平成23年11月30日(水) 京都市立鳴滝総合支援学校にて公演 平成30年10月5日(金) 愛知県立岡崎盲学校にて公演			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	無	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/xv75nKclZq4	
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
	PW:			

【公演団体名】公益社団法人 宝生会

対象	○	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	はじめまして 能 “楽”			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	【別添2をご参照ください】			
	公演時間(80分)			
著作権	○	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	【別添3をご参照ください】			
演目選択理由	狂言「柿山伏」 ①動物の鳴きまねなどがあり、子どもにも分かりやすいため、上演希望が多い人気曲目。また近年では小学校6年生「国語」の教科書に伝統文化ジャンルの教材として採用されており、教育現場でもなじみがあります。 ②あえて山伏物の「柿山伏」を公演の最初に上演することにより、能「黒塚」の山伏との対比から、能と狂言の違いを、観て聴いて理解ができます。 ③狂言の大きな特徴である「名乗り」「道行き」「擬音の発声」が、全て網羅された入門編に最適な演目です。 ④笑いが多い狂言を番組の最初に構成することにより、能楽鑑賞は難しいという先入観を払拭します。 能「黒塚」 ①“多角的なものの見方”を芸術鑑賞で養うために、我々の日常生活の善悪基準とは異なる視点で描かれた演目を採用しました。 ②学校公演(子供・青少年向け)の能楽公演でよく上演される演目です。 ③昔話風の展開で、教訓的要素がある物語です。 ④鬼女と山伏の争いの場面は大変迫力があり、児童・生徒さんの興味を引きます。またその場面でお囃子は、三鬼女と呼ばれる「道成寺」「葵上」、そして「黒塚」のみでみられる迫力のある特殊なリズムで、より場面を盛り上げます。 ⑤「黒塚」の鬼は、他の鬼女物にはない、老婆から人食い鬼になってしまった人間の悲哀が込められています。また用いられる大道具(作り物)・小道具(杵杵輪など)も能独特の演出が施されています。 ⑥コミカルで楽しい役回りとなっている能力(狂言方)が、こっそり寝屋を覗こうとするシーンは、演能の中で笑える部分となっており、見所の一つです。また、本事業公演では通常の演能より派手な演出となっております。			

児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	○ご挨拶 礼儀を重んじる伝統芸能。全員で正座をしてご挨拶をすることにより、演者と客席に一体感が生まれます。正座をする機会が少ない昨今において、伝統芸能を通して日本人の礼儀の清々しさを感じてもらいます。 ○能の体験 能の姿勢と運歩を、能楽師と一緒にいきます。簡単そうに見えて意外に難しい能楽の基本中の基本を学びます。また能の泣く所作“シオリ”を稽古し、能『黒塚』で観る主役の悲しい心情を、感じ取ります。 ○狂言の体験 狂言の特徴はセリフ喜劇です。「このあたりの者でござる」といったセリフ発声や、狂言の“大笑い”をして、狂言の魅力を体感します。 ○能・狂言クイズ 能楽は、極限まで無駄を省いた芸能です。少ない小道具と所作またセリフで、様々な仕草を表現します。それらを能、狂言それぞれで演じ、何をしているところかクイズを出します。想像力を高める自由回答形式です。クイズで興味を持ってもらいつつ、能楽特有の演出を学ぶコーナーです。 ○動画バーチャル能楽堂 宝生能楽堂を独自撮影・編集した動画を上映します。一般では絶対に見ることができない舞台から見た客席の映像や、出演者が準備をする楽屋風景も収めています。体育館にいながらにして、能楽堂の雰囲気をお楽しみいただけます。由緒ある能楽堂を有する宝生会と、影向舎の企画力が創り出した演出です。宝生流第二十代宗家 宝生和英が出演。 ○能面・装束・小道具体験:本物の能面・装束を身に着ける「黒塚」で使用される梓柁輪(糸車)を回す 普段、プロの能楽師が使用している能面と装束をご用意します。能面は顔に掛けると、その視界の狭さに驚き、装束は重厚感と絢爛豪華な美しさに感激します。実際に児童・生徒さんが自身の体に掛け、羽織ることにより、楽しみながら能楽師の演技の奥深さを垣間見ることが出来ます。また「黒塚」だけにしか使用されない小道具・梓柁輪(影向舎特製)を回して、「黒塚」の前場への興味を持ってもらいます。 ※宗家の強い意向、出演者また制作団体の総意により、全員参加を原則としています。また本公演でも能面体験の特設コーナーを設けますので、保護者の方々、近隣の皆様もご参加いただけます。 ○能『黒塚』の最後に附祝言「千秋楽」を全員で謡う 児童・生徒参加が難しい演能ですが、能楽堂でも演じられる一日の公演を平和な気持ちで終える附祝言を、巡回事業の特別プログラムとして構成しました。ワークショップ後には、各校用CDと児童・生徒さん全員分の教材をお渡しします。また教材には各家庭でも稽古ができるように動画サイトに対面稽古映像(シテ方宝生流が出演・謡の節をカラオケ形式で分かりやすく演出)をアップし、そのURLを記します。 ワークショップで、能楽師が普通に行う稽古を体験。 ↓ 学内ではCD音源で友達と共有、自宅では動画サイトで家族と共有して学ぶ。 ↓ 本公演の演能前で最終のおさらい。 ↓ 児童・生徒さん全員と、出演者で本公演のフィナーレを飾ります。 【別添4をご参照ください】																					
	シテ方＝[宝生会] 11名(シテ1名・地謡6名・後見2名・働き2名)※昨年度より1名追加【展示コーナーの拡充により児童・生徒さんへの対応者が新たに必要のため】 ワキ方＝[未定] 2名(ワキ・ワキツレ) 狂言方＝[未定] 3名(シテ・アド・アイ) 囃子方＝[未定] 4名(笛・小鼓・大鼓・太鼓) ＊詳細は別紙メンバー表をご参照ください。 ＊三役(ワキ方・狂言方・囃子方)のメンバーは、宝生会のスケジュール優先で調整するため、週別で変更の可能性有り。																					
	出演者																					
	公演出演予定者数 (1公演あたり)	<table><tr><td>出演者:</td><td>20</td><td>名</td></tr><tr><td>スタッフ:</td><td>7</td><td>名</td></tr><tr><td>合 計:</td><td>27</td><td>名</td></tr></table>	出演者:	20	名	スタッフ:	7	名	合 計:	27	名	機材等 運搬方法	<table><tr><td>積載量:</td><td>2</td><td>t</td></tr><tr><td>車 長:</td><td>6.3</td><td>m</td></tr><tr><td>台 数:</td><td>1</td><td>台</td></tr></table>	積載量:	2	t	車 長:	6.3	m	台 数:	1	台
	出演者:	20	名																			
スタッフ:	7	名																				
合 計:	27	名																				
積載量:	2	t																				
車 長:	6.3	m																				
台 数:	1	台																				

【公演団体名 公益社団法人 宝生会 】

実施に当たっての 会場条件 ※採択決定後、採択団体へ図面等詳細の提出をお願いします。	・舞台の設置場所		フロア	・ピアノの移動の要否		不要	
	・緞帳の要否		不要	・トラックの横づけの要否		要	
	・暗幕の要否		不要	・電源容量(主幹ブレーカー容量)		A	
	・舞台に必要な広さ		間口:18.5メートル 奥行き:9.5メートル				
	・バスケットゴールの設置状況		不問				
	・その他		トラック横付けについて:必ず体育館横でなくても可。 ステージを出演者の控え室として使用します。(ステージが無くても可) 体育館の形状に合わせ、舞台を縦・横の自由に設営できます。				
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み		無	会場設営の所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出	
	8時30分頃	8時45分～11時45分	13時30分～15時10分	10分	15時20分～16時50分	17時00分頃	
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。						
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		700名まで ○体育館の大きさによって、人数増が可能になる可能性がありますので、ご相談ください。 ◎能楽の所作の体験がありますので、客席は椅子を使用しません。				
	本公演		700名まで ○体育館の大きさによって、人数増が可能になる可能性がありますので、ご相談ください。 ◎250名以上のご参加の場合は、後ろの席からも観やすいように、おおよそ250名までは舞台近くで直座り、それ以上は椅子の使用をお願いします。				
ワークショップ 実施形態及び内容	【別添5をご参照ください】						
ワークショップ 実施形態の意図	【別添6をご参照ください】						
特別支援学校での 実施における工夫点	【別添7をご参照ください】						

実施可能時期 ◇はB区分申請 団体のみ ※実施可能時期は、採択決定後に再度確認します。(大幅な変更は認められません)	上半期【令和4年6月1日～令和4年7月25日】 ※うち下記の日程は不可となります。 6月16日(木)、20日(月)、22日(水)、28日(火) 7月7日(木)、15日(金) 上半期公演可能合計 平日38日		
	下半期①【令和4年8月21日～令和4年12月26日】 ※うち下記の日程は不可となります。 9月9日(金)、15日(木) 10月13日(木)、19日(水)、20日(木)、21日(金)、24日(月)、26日(水)、27日(木)、28日(金) 11月17(木) 12月9日(金)、15日(木) 下半期①公演可能合計 平日65日		
	下半期②【令和4年1月7日～令和4年1月31日】 ※うち下記の日程は不可となります。 1月12日(木) 下半期②公演可能合計 平日15日		
	※土日移動の可否		可
	◇【令和5年度】	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (うち平日 日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (うち平日 日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (うち平日 日)	
◇【令和6年度】	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (うち平日 日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (うち平日 日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (うち平日 日)		
※目安として7月25日～8月22日、12月27日～1月6日を除く期間を記載してください。			

リンク先	No.1	【公演団体名 公益社団法人 宝生会 】
制作団体沿革	文化芸術による子供育成総合事業に向けて 宝生流第二十代宗家 宝生和英 能楽は世代間ギャップが無く、祖父母から孫まで一緒に楽しめる魅力を秘めています。能楽を学ぶ事は、順序立てた自身の主張能力を培い、人・社会とのコミュニケーション能力を高めます。学びの体験は全員参加で無ければ意味がありません。楽しみながら能面・能装束を身に付けてください。そしてその経験を、友達や家族の人と共有してください。 私も、皆さんにより近く同じ目線で設営された能舞台で舞うことによって、学ぶ・観るの二大要素を網羅したこの事業の素晴らしさを伝えたいと、強く願っています。 	
		

本公演プログラム

出演 シテ方宝生流 他

時間 1時間40分

- 1、**狂言**『柿山伏』
 - 2、囃子方の実演と解説
 - 3、能の役割の紹介
- ～休憩～
- 4、ワークショップで覚えた、
シオリと附祝言「千秋楽」のおさらい
 - 5、**能**『黒塚』
 - 6、アフタートーク

本公演演目

本公演のポイント

1 代表的かつ分かり易い演目

狂言は、笑いがあふれ国語教材にも引用される『柿山伏』。能は、前半の主役は老女・後半は鬼女に変わる展開の面白さと、秘められた心情の深さが秀逸の『黒塚』をお楽しみいただきます。

2 ワークショップで体験した謡を、演能の締め括りで全員参加

『黒塚』の終わりに、すでに児童・生徒さんがワークショップで体験している附祝言『千秋楽』を構成します。
演能最後の見せ場で、プロの能楽師と一緒に謡い、フィナーレを飾ります。

3 本格的な能舞台・大型スクリーン

能楽鑑賞には必須条件である能舞台を本格的なスケールで設営します。
また舞台上手には、大型スクリーンを設置し、『黒塚』の現代語字幕の投影や、能の役割の説明・囃子方解説の補助映像を映します。



体育館への入場時に、ワークショップで上映した動画“バーチャル能楽堂体験”をスクリーンに投影します。ワークショップに参加できなかった児童・生徒さんや、ご来場の保護者の方にも宝生能楽堂の雰囲気をお楽しみいただけます。
また体育館に設営された能舞台を比較しながら、その構造と意味がご理解いただけます。



かきやまぶし
1 狂言『柿山伏』

明快なストーリー、動物の鳴きまね等、大変分かり易い人気曲目。

近年では小学校の国語教材として採用されている最も認知度の高い狂言です。
まずは笑いたっぷりの狂言を観て、能楽の楽しさに触れていただきます。

柿山伏のあらすじ

修行を終えた山伏が、帰り道にのどが渇いたので、畑に入り、勝手に柿を食べ始めます。
夢中になって食べているところに畑主が現れます。盗み食いを見つけた畑主が怒鳴りつけると、
山伏は気づかれまいと木に隠れます。畑主は少し山伏をからかってやろうと、
“あれは犬だ、猿だ”と言って鳴き真似をさせます。さらに愉快になった畑主は“鷹だ”と言って、
山伏を高い枓から飛ばせませす。勇気を出して飛び降りた山伏は・・・

本公演演目



罎桶《かずらおけ》

腰掛や酒杯等として
使われる小道具。
黒漆塗りの円筒形の桶。
もとはカッラを入れている
ものと言われている。



柿山伏を鑑賞する前に見所をご説明



能楽は限られた小道具で様々な表現をします。狂言・柿山伏では罎桶を大きな柿の木に見立てます。
想像力を膨らませると、立派な柿の木と熟れた柿が見えてくるはずです。

2 囃子方の実演と解説

まずは迫力のある4つの楽器（能では“お道具”と称されます）の演奏を聴いてもらいます。



あれ？
どこかで見たような？

お雛様かな？

本当だ！お雛様！

↓ **そうです！**



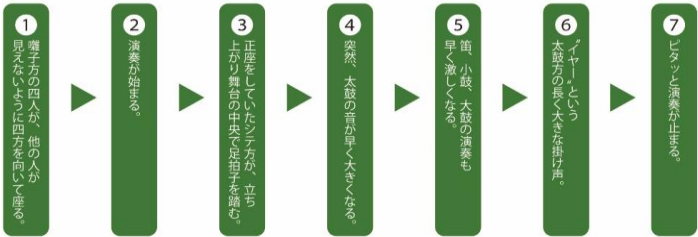
雛人形でお馴染み
五人囃子のモデルです

どのようなきっかけで演奏されているのか？
能楽堂では行わない実験演奏をご披露します。



囃子方にとって「ハア～ヨォー」という“掛け声”が重要です。

掛け声がきっかけで、演奏の強弱や調子を変え、またシテ方などの演技の合図ともなります。それを分かり易くご覧いただくために、囃子方4名が、それぞれが見えないよう四方を向いて座り、掛け声のみを合図に演奏をします。



本公演演目

リンク先

No.2

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

唱歌《しょうが》

楽器の擬声音。高音の旋律は「オハーラー」など、カタカナで表記されている



焙じる《ほうじる》

大鼓の両側の皮を、胴から分解し、炭で約2時間炙って乾燥させること



本公演演目

桴革《ばちかわ》

太鼓の表革の中心に貼られた直径約4cmの鹿革



各楽器（道具）の説明



笛



笛は、唱歌[※]が記された教本で旋律を覚えます。まず笛で演奏し、それを笛方が声で表現します。



その後、唱歌をスクリーンに映し、児童・生徒さんがゲーム感覚で

小鼓・大鼓



小鼓と大鼓は、非常に湿度や温度に敏感な楽器です。小鼓は湿気が必要とするのに対し、大鼓は皮をカラカラに乾燥させて独特な高音を奏でます。大鼓は必ず公演前に皮を焙じます[※]。スクリーンに能楽堂の焙じ室を映し、実際に焙じている様子をご覧いただけます。また両方の楽器の音色の違いを実演し、その特異性をご説明します。

太鼓



太鼓は、真ん中の小さな桴革[※]をねらって打ち、激しい音を出します。その構造をご説明しながら、叩くリズムを、児童・生徒さんと一緒に練習してもらいます。

ヒウラウラウラウラ♪

と唄い、それに笛方が演奏を加えます。

スクリーン映し



各楽器の外観や構造を、まんべんなくご覧いただくため、スタッフがライブカメラを用いて、その場で映し、スクリーンに投影します。



3 能の役割の紹介

能は、シテ方と三役と呼ばれるワキ方・狂言方・囃子方の4つの役割が一体となって演じられる芸能です。口頭だけでなく、それぞれの役割や装束の違いをスクリーンに投影して、立体的にご紹介します。

		役割	能「黒塚」の場合
シテ方	シテ	主役	老婆／鬼女
	地謡	コーラス隊・心情や情景を謡う	
	後見	舞台進行係	
ワキ方	ワキ	脇役 シテの相手役	山伏祐慶
	ワキツレ		同行の山伏
狂言方	アイ	前後半の間をつなぐ役割	能力
囃子方		合奏隊(笛・小鼓・大鼓・太鼓)	



「黒塚」の登場人物です。



シテ方

老婆(前シテ)



鬼女(後シテ)



ワキ方

山伏祐慶



狂言方

能力

本公演演目

本公演演目

唐織《からおり》

能装束の中で最も豪華絢爛な衣装。主に女性役の上着として使われる

肩衣《かたぎぬ》

肩の部分が張った袖なしの上着。たんぽぽやパンダなど背に描かれた図柄が斬新

休憩10分

体験・展示コーナー

能面は下に傾けると悲しげ、上に傾けると明るい表情に変わります。チョットした角度で変化する能面の不思議を知ることができる特殊面掛けをご用意。



宝生能楽堂の写真展示

客席からの目線・舞台からの目線、さらには楽屋の様子など、普段は見る事ができない能楽堂の様子を多角度からご覧いただけます。

実際に体験することができる能面



能楽師がご指導をしながら、気軽に顔に掛けてもらえる体験です。ワークショップで体験できなかった児童・生徒さんや近隣の方など、開演前、休憩中、終演後にお越しください。その視界の狭さと装着感を体験してください。

能と狂言の足袋を展示



能楽師と狂言師は、舞台で使う足袋が異なります。特に狂言足袋は色の秘密が隠されています。その由来のご説明文と、実際の足袋を展示します。

能の装束、狂言の装束を展示

能楽師の主役が着用する華やかな唐織[※]や、狂言装束の代表格である絵柄がユニークな肩衣[※]など、能装束と狂言装束の模様・素材の違いを、間近でご覧いただけます。



ワークショップにはなかった頭（カシラ）と扇を体験

黒塚の鬼女が被る頭。鬼の恐ろしさを演出します。何の毛で出来ているのかわかりますか？なんとヤクの毛！

扇はただ開くだけでなく、能楽の開き方があります。能楽師が指導をしますので、自分も能楽師として体験してください。



リンク先

No.2

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

附祝言《つけしゅうげん》

一日の能の最後に地謡方が謡う、めでたい一節

シオリ

能楽の泣く型

本公演演目

4 ワークショップで覚えた あらすじ・シオリ・附祝言『千秋楽』のおさらい

休憩後の『黒塚』を鑑賞する前に、もう一度ワークショップで習ったことの内、4つのおさらいをします。

- 1 『黒塚』の最後に能楽師と一緒に謡う附祝言『千秋楽』
- 2 代表の先生による舞台上での杵杵輪を回す所作実演
- 3 前半の老女が悲しさのあまり泣く時の所作“シオリ”
- 4 『黒塚』のあらすじと、みどころ



舞台に出てくる作り物は、黒塚の演出において重要な役割をする大道具です。それは野原の一軒家、老婆の家の中、そして老婆の寝室へと変幻します。実際にあらすじ説明の時に、舞台上に出して、より黒塚への興味を引き立てます。



?

なぜ、おばあさんが鬼になってしまったのか？
考えながら舞台を見てみましょう

?

能舞台裏から、囃子方が奏でるお調べが聞こえてきたら、いよいよ能が始まります。

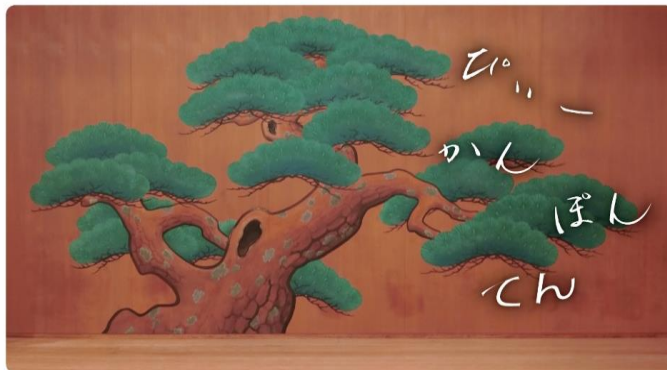
これから鑑賞いただく『黒塚』には、ワークショップでの体験や、

本公演前半の実演・解説のエッセンスが全て集約されています。

気持ちをゆったりとさせ、体育館で繰り広げられる能楽の世界をたっふりとご堪能ください。

お調《おしらべ》

開演直前に囃子方が、
それぞれの楽器の調子を確認する短い楽曲



本公演演目

5

能『黒塚』

【字幕(現代語訳)付き】



黒塚のあらすじ

諸国を行脚する山伏一行、奥州安達原にさしかかった時、日が暮れてしまいます。野に灯る明かり。それを頼りに、一軒のあばら家にたどり着き、一夜の宿を請います。そこに住む老婆、やむなく山伏たちを家に招き入れます。老婆は山伏たちをもてなそうと、身の上を話したり、「糸尽くし」の歌を歌ったりしてみせます。夜はだんだんと更け寒さが増していきます。老婆は「寝屋だけは絶対に見えないように」と言い残し、暖をとる薪を集めに山に出かけて行きます。しかし、お供の能力が好奇心からこっそりと寝屋をのぞいてしまいます。するとそこには、なんと山のように積まれた人の死骸。山伏たちは、ここは鬼の棲み家で、あの老婆は鬼女だと知り、急いで家を出て逃げます。山から戻った老婆、裏切られたことを知り、怒りで本性を現し鬼女となり山伏たちを追います。【ここでシテは老婆(前シテ)から、鬼女(後シテ)となり、装束・能面を変えて登場します】そして鬼女は追いつき、山伏一行に襲い掛かりますが、最後に鬼女は、山伏の懸命な祈りによって倒され、自分の姿に恥じ入りながら悲しく消え去ります。

スクリーン投影

シーン説明

それまで野原だった風景が一瞬にして、おばあさんの家の中に変わります。



台詞

ひとり、声をあげて泣き明かすのです。



台詞

そうそう……。私が戻るまで絶対にこの寝室をのぞいては、いけませんよ。



セリフがないシーンも情景がわかる説明を投影

台詞

心も乱れ、恐ろしい。心も乱れ、恐ろしい。とにかく逃げて、逃げて、速くへ離れよう。



台詞

待て、山伏たち！あれほど、隠していた寝室を見られてしまった。



台詞

天と地に居場所もなく、身をちぢめ、目もくらみ足もとは、ヨロヨロとさまよう。



リンク先

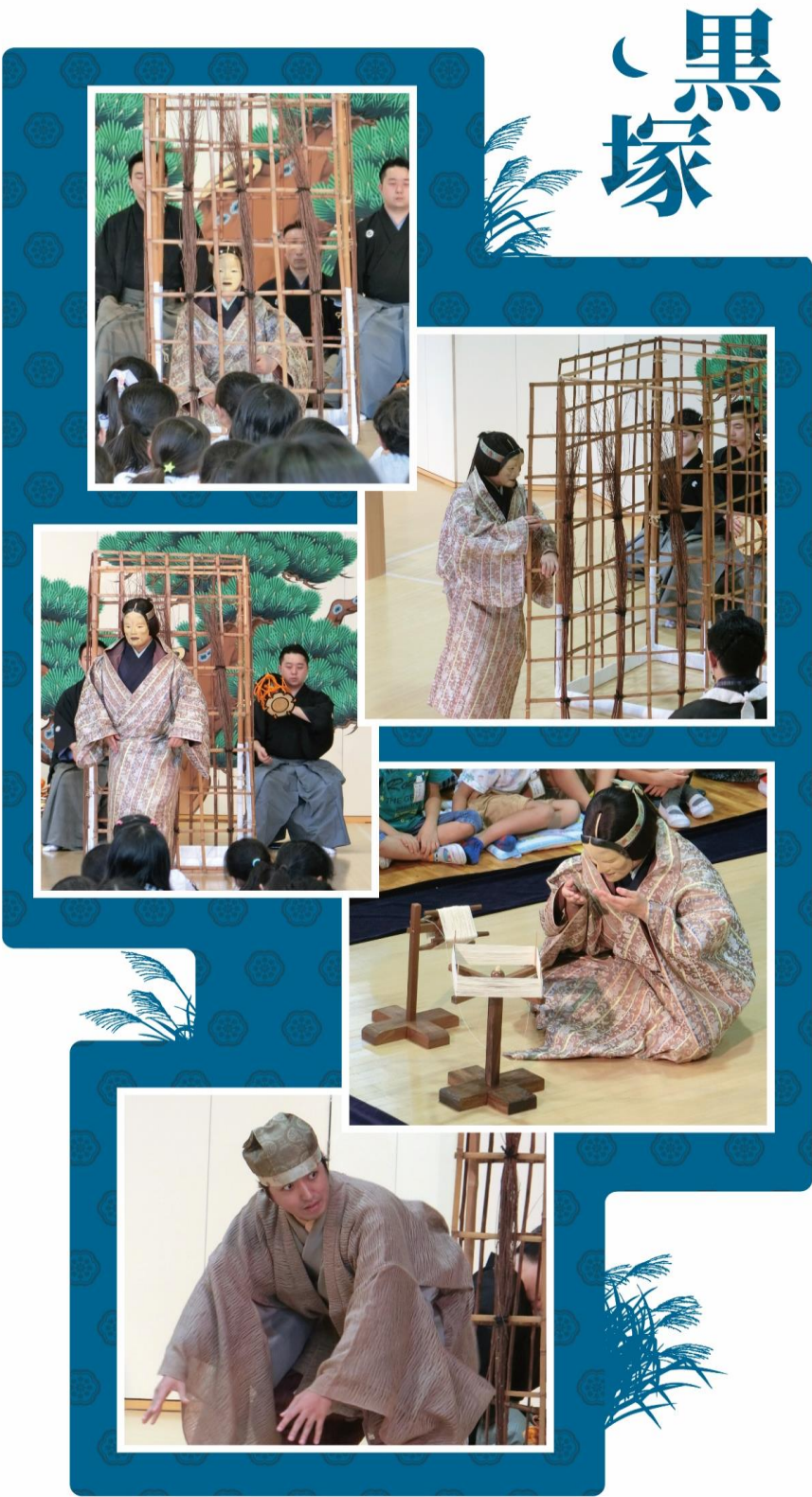
No.2

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

本公演演目



リンク先	No.2	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
本公演演目 地謡方《じうたいかた》 シテ（主人公）の心情を謡うコーラス隊の様な役割を担う。シテ方（能の役割の一つ）が担当する		 ワークショップと本公演の集大成 附祝言「千秋楽」を一緒に謡う  地謡と一緒に能を完成させよう！		

リンク先	No.2	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
本公演演目	6 アフタートーク 『黒塚』についての出演者からの問いかけと、皆さんからの質問 解説役の能楽師と、さらに主役の老女と鬼女を演じた“おシテ”（主役）が役を終えて、人間にもどって再度舞台に登場します。  『黒塚』にはその前段になる「黒塚伝説」があります。その伝説をイラストなどを、交えてご紹介します。鑑賞を終えた高揚感に包まれている時に、さらに能の奥深さを、体に吸収します。  ? どうして優しくったお婆さんは、鬼になってしまったのかな？ 能力が勝手に部屋を見たから。 裏切られて悔しかったから。 山伏達がお婆さんに内緒で、帰ったから。 それでは実際に、鬼に聞いてみましょう！  まずは出演者から質問を投げかけます。それに自由に答えてください。次に観たままの児童・生徒さんの率直な質問をお受けします。			

リンク先

No.2

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

7 公演後
動画を配信（本事業での内容を集約）

本公演終了で、この事業は終わりません。

本当の価値は児童・生徒さんが、その体験や鑑賞を友達と、また家族の皆さんと共有してもらうことです。

「能面を顔に当てると見づらいよ」「大きい声で千秋楽を謡ったよ」「迫力があつたよ」
という感想をご自宅で話してもらう事は、もちろんですが、
さらに家族みんなで様子を映像で観ることが出来れば、
より臨場感を持って子供たちの豊かな発想や感激を知ることができます。

本公演演目



能楽を通して家族の新しいコミュニケーションに役立ててください。



リンク先	No.2	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
演目概要	はじめて 能楽 難しいと思われがちな 能楽を楽しんでもらう為の工夫 工夫ポイント① 能楽とは？ 能と狂言・二人の兄弟が一つになって能楽です 能楽の楽しさは、能と狂言の、異なる性格と役割を知るところから始まります。 ワークショップ ワークショップでは、能役者と狂言役者それぞれが、演出の違いを分かり易く実演・解説します。 ↓ 本公演 本公演では、大変ポピュラーな、狂言「柿山伏」・能「黒塚」を上演します。狂言のセリフ古典劇、能の優美な歌舞劇の両面から、能楽の魅力にアプローチします。 			

リンク先

No.2

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

工夫ポイント②

体育館に異空間が出現！こだわりの能楽堂

❀ 能楽を観るなら雰囲気も大切 ❀



初めて能楽を鑑賞する児童・生徒さんに、能楽の良い印象を残すには、能舞台は必須です。
各校の体育館の形状に合わせて、本格的な舞台を特設します。

❀ 能楽堂では味わえない臨場感 ❀



役者の息遣いや、足音まで聞こえるギリギリの場所まで、座っていただけます。

❀ 理解を深める字幕や映像の投影 ❀



「黒塚」の現代語字幕や、役割の紹介など、鑑賞する際に理解を深めるツールとして設営します。
スクリーンは大型100インチ・後方からの投影型タイプにより、客席スペースに一切の制限を設けません。

工夫ポイント③

能楽師と一緒に考えてみよう！アフタートーク

本来の能楽公演ではみられないアフタートークをご用意しました。
鑑賞を終えた子ども達の率直な疑問・質問を、出演者が2段階に分けてお答えします。

～演能の前に問題提起！～

「お婆さんは、何故鬼女になってしまったのか？」について
注目しながら観てみてくださいね



① ～鬼が登場！～直接聞いてみよう～

まず、間近で観た能「黒塚」のそれぞれの役を能楽師と一緒に振り返りながら、
登場人物の心に思いをめぐらせます。

お婆さん、どうして
鬼女になってしまったんですか？



それはね…

② 疑問・質問コーナー

過去の感想や質問例

- どうして着物が鬼の時には、変わっていたのですか？
- 面をつけている人は特別視力がいいのですか？
- 能楽師の方はどれくらいで一人前になったとされるのですか？
- 鬼女の役なので女の人だと思っていたら、男の人でした。女性の能楽師はいるんですか？
- あの棒はなぜ鬼の時しか持たないのですか？
- 能力（狂言方）は何で途中からしか出てこなかったのですか？
- 一言一言声が大きくて喉は痛くないんですか？
- 低い声はどうやって出しているんですか？
- 囃子方が叩くときに何で「オー」っていうのか疑問に思いました。
- どうしてムチが光っていたのですか？ふつうのムチなら光らないはずなのに、どうしてですか？
- 黒塚のお話しのお婆さんと鬼の時の役者さんは、同じ人なのかどうか気になります。



工夫ポイント④

なぜ、能「黒塚」なのか

老婆はなぜ鬼女になったのか…？

…善悪の概念とは？

我々が心に抱く“喜怒哀楽”、それによっては善人が悪人になって罪を犯したり、
とてつもない恨みの感情を抱いてしまうことがあります。
普段の日常生活で善と悪を白黒つけることはよくありますが、
能で演じられる喜怒哀楽に善悪をあてはめることは簡単ではありません。

何百曲とある能の演目から「黒塚」を選択した理由は、
「黒塚」とまた前段となる「黒塚伝説」には、
能を通した人間の業の奥深さが秘められているからです。

老婆を鬼女にしてしまうほどの感情とその壮絶な背景。
それを知った鑑賞者は「鬼＝悪者」、
ひいてはすべてが表向きの善悪だけで説明できるという
固定観念を覆されることでしょう。

過去公演校からいただいた感想

- くろつかさん、ありがとう。(小学1年生)
- 鬼が来て怖かった。(小学1年生)
- 能の黒塚は、ちょっと難しかったです。家に帰って黒塚伝説を調べてみました。でもどうして鬼女になったか、わかりませんでした。(小学2年生)
- なんで鬼女は隠しているところがあるのに、うちに入れたの？(小学2年生)
- 鬼は怖かったけど、最初のおばさんの時は、優しくでした。(小学2年生)
- 開けちゃいけないドアを開けて自分が、逃げちゃうのは、役だけどちょっとひどいと思いました。(小学3年生)
- 山伏・祐慶が必死に呪文を唱えていて、ちょっと応援したくなりました。(小学3年生)
- みんな、おばあさんは最初は優しいと言っていましたけど、私は最初怖いと思いました。(小学3年生)
- 今度は黒塚に行ってみたいです。(小学3年生)
- 見てはいけないと言われても、何が入っているのかを見たいのは分かるけど、見ちゃいけないから見なかった方がいいなと思った。(小学4年生)
- 黒塚の話は全体的に少し悲しい話でした。疑問に思ったことは、どうして寝室に人の死体をおいたのかです。(小学4年生)
- おにばらが負けた時、ちょっとほっとしました。(小学4年生)
- 鬼女が見るなと言った部屋を見られて、可哀そうだと思いました。(小学4年生)
- 鬼女がとっても怒っているときに、ママの顔を思い出して、今あらためると、ママには、いつも怒られるから、いつもががんばらなくちゃと思いました。(小学5年生)
- 能力が寝室を見なければ、こんな話にならないと思いました。(小学5年生)
- 老婆が鬼女になったのは、寝室を見られたからか、泊めて帰る前になろうとしていたのか、どちらなのか気になります。(小学5年生)
- 優しくしたおばあさんが、鬼女になったとき、開けなかったらどうなっていたのか、気になりました。(小学5年生)
- 鬼女はどこに消えたのか、気になります。(小学6年生)
- それにしてもなぜ老婆は、鬼女になってしまったのだらうと思いました。(小学6年生)
- おばあさんが鬼女になったのは、昔に何かあって、鬼女と呼ばれるようになったのだと思います。でも祐慶達を家に泊めたのは、心のどこかに優しさがあったからなのではないかと思います。(小学6年生)



能を鑑賞した子ども達の純粋な解釈と反応には、
私たち大人が気付かされることが沢山あります。



リンク先	No.2	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態		なぜ「千秋楽」を謡うのか 能公演では、最後に上演する演目の事を切能といい、鬼退治、妖怪退治など祝言性がない曲の場合がほとんどです。そのためお客様に明るい気持ちになってお帰りいただくために、おめでたい謡でお送りする慣わしがあります。それを附祝言と称し、「千秋楽」は高砂という曲のキリ(終曲部)で、附祝言の代表的な謡です。 能では現実には存在しない鬼や妖怪が主人公として登場します。本公演の演目「黒塚」は前シテのおばあさんから、鬼女になった後シテが登場するため、正に附祝言が謡われる演目です。“千秋楽は民を撫で。万歳楽には命を延ぶ。・・・”過去の本公演では低学年から高学年まで児童さんがしっかりと節を覚えて、鬼になったおばあさんの悲哀を払拭するかのように大きな声で謡ってもらいました。 ワークショップから稽古をして、本公演の最後に全員が能楽師と一緒に謡います。そして能楽の根幹にある寿ぎの気持ちが生まれます。		

リンク先	No.3	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
ワークショッププログラム ～能って？狂言って？～ 講師:シテ方(3人)、狂言方(1人) 時間:1時間30分 1. はじめまして能“楽” 2. 【実演】～能って？狂言って？～ 3. 【体験】～能楽師になってみよう～ 4. 【体験】～能楽しぐさクイズ！～ 5. 能楽の成り立ち  プロジェクター 6. バーチャル能楽堂体験  オリジナル動画 7. 【体験】能楽体験ひろば 8. 【稽古】本公演にむけて～謡ってみよう～ 狂言 両者がお互いの違いを 実演することで 目で見て触れて、違いを実感！ 能 ワークショップのポイント とにかく分かりやすく・楽しいプログラム構成 能楽という芸能の魅力を、身近なものとして記憶に残してもらえるよう体験・映像を効果的に構成。 オリジナル動画で能楽を体感 一般的な紹介映像にはない、オリジナル作成のバーチャル能楽堂体験など、体育館にいながらにして、能楽堂の雰囲気を楽しめる動画を上映。 全員で体験 装束を羽織る、能面を掛ける、狂言の大きな笑いを響かせる・・・身に付け、発信して能楽を体感。				

ワークショップ
実施形態及び内容

1 はじめまして能“楽”

知る

仕舞《しまい》
面を掛けず、紋付袴のままで舞う能の一部

舞台上手側から能の役者がすうーっと入ってきて美しく舞い謡いはじめた。

名乗り《なのり》
登場人物が自身を紹介するセリフ

「げにさまぎまの舞姫の
声も澄むなり位吉の 松影も映るなる
青海波とはこれやらん」

能の役者たちは静かに舞台袖へと消えていった…

すると今度は、舞台下手側から狂言の役者が入ってきて大きな声で名乗りはじめた。

「東京に住まい致す狂言方の者でござる。

今日は〇〇へ参ろうと存ずる。まず、そろりそろりと参ろう。

いや、なにかと言ううちに、はや〇〇じゃ」

一体これから、何が始まるんだろう…？

道行《みちゆき》
目的地までの道中を表す動きで、心情や状況の独白をしながら進む型



みなさん、こんにちは！！

びっくりしましたか？



最初に扇を持って厳かに舞を披露したのは“能”、

大きな声で名乗りをしていたのは“狂言”です。

このワークショップは、能楽を構成する二本柱の能・狂言を比較しながら楽しんで頂ける構成となっています。

皆さんにとって初めての体験となる“能楽”という未知の世界へこれからご案内します。

2 能って？狂言って？

みる

能楽を構成する能と狂言。両者は長い歴史のなかで、表裏一体となって世界に誇る芸能へと成長しました。喜怒哀楽の表現方法など、その特徴には共通点があり、また似て非なる要素もあり、それが能楽の魅力のひとつです。その違いを分かり易く解説実演します。

能



ユウケン

歓喜や興奮などの感情を表す型



広げた扇を胸の前で上下させて、歓喜や楽しさを表現する。能の世界では、この表現を“ユウケン”といいます。

狂言



大きな声と全身を使って「ハーッハーッハッ」と豪快に表現する。

喜び

シオリ

能楽の泣く型



手を目にあてるようにして、涙を抑える。これを“シオリ”といいます。

悲しみ



所作は能と同じ。それに「エッヘッ、エーン、エーン」と大声で泣く。

能楽コラム

能の“シオリ”で手を目にあてる所作は、本来は着物の袂で涙を拭う様子を表現しています。能では着物の袂を実際に持つのではなく、袂がある“前提”で所作をすることで、そぎ落とされた表現となりました。



「地団駄をふむ」という言葉は知っているかな？その動作ととても似ているね。トン、トン、トントン！というリズムに乗っています。

怒り



足で地面を強く叩き踏むのは能と同じです。また「腹立ちや、腹立ちや」などのセリフをとまいません。

3 能楽師になってみよう

体験

お稽古の前にきちんとご挨拶



「よろしくお願ひいたします」

能楽には立ち方、歩き方に決まりがあります。それをしっかりと守ることによって、能舞台での美しさが創られます。見ていると簡単そうな基本的な所作カマエとハコビを実際に児童・生徒さんがやってみると窮屈で難しいことを実感できます。

一、能楽の基本所作

カマエ

カマエ

能楽を演じる基本姿勢

背筋を伸ばして、少し腰を落とす！



…姿勢を保つのが難しいね！

ハコビ

足を地面にすりながら前に進む…



ちょっと能楽師に近づけたかな？

ハコビ

指り足で前に進む能楽の基本運歩

シオリ

能楽の泣く型



能

シオリ（泣く）

二、しぐさ

狂言

笑う



4 能楽しぐさクイズ！～何をしている？～

Q：下の二人は、それぞれ何をしているのかな？

能



A：.弓をひいている

狂言



A：.ノコギリをひいている

発 見

能・狂言ともに、「ないものをある」と見立てて演じる「想像の舞台芸術」なんだね

5 能楽の成り立ち

学ぶ



プロジェクター投影

能・狂言は長い日本の歴史に育まれ、先人達が工夫と努力を重ねて成立した芸能で、今現在でも成長を続けています。そのような能楽の変遷を、平安時代から現代まで、時代をイメージするスライドを上映し、また馴染み深い戦国武将と能楽の深い関りなどをご説明しながら、楽しくご理解いただきます。



私達も能をよく観ていました！



(奈良時代～) 平安時代

中国から伝わった芸をもとにした
“猿楽”という名で当時は親しまれていました



室町時代

能楽において重要な人物世阿弥によって、
現代にも伝わる能楽の礎が築かれました



そして現代へ…

その後、明治・大正・昭和という、
能楽界だけでなく、日本にとっても激動の
時代を経て、能楽専門の劇場“能楽堂”が
造られるまでになりました。



能楽
絵巻

江戸時代

この頃になると“式楽”と呼ばれ、将軍などに保護
されたため、それまでのように庶民は能を観れなくな
ってしまいました

6 バーチャル能楽堂体験

体験

オリジナル動画

宝生会が所有する宝生能楽堂にて、プロの映像制作会社が撮影・編集した迫力ある動画を上映します。客席から舞台を見た様子から始まり、一般の方が絶対に入ることができない能舞台上からの客席を見た目線、さらには特別な許可を得て、本舞台が上演されているシーンを楽屋、舞台方向から収めています。立体的に能楽堂を体験していただきます。

正面・脇正面・中正面

能楽堂の見所（観客席）
位置の名称

鏡板《かがみいた》

本舞台（約5m半四方・
正方形の上演場所）の
背景の板

鏡板から《はしかかり》

下手（客席から見て左側）
から、本舞台まで長く伸びる
廊下形状の場所

お客さんの目線

松の絵が描いてあるけど、
何か意味があるのかな？



のうぶたい
能舞台

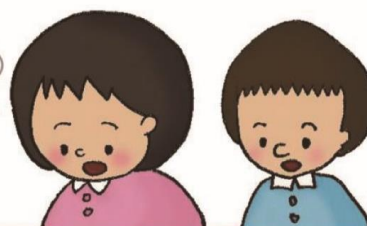
制作：榊影向舎 協力：宝生会 制作：パワーハウス



室内なのに、屋根がついてる！不思議！
客席の向きも、なんだか変わってるよ！

裏側はこんな風になっているんだね。
鏡の前の人は何をやっているのかな？

なんだか緊張しちゃうね…！



鏡の裏《かがみのま》

下手奥で出演者が出番を
待機する場所。自分から、
別の存在へと変身するため
の神聖な場所とされる



役者の目線



7 能楽体験ひろば **体験**

装束と能面は、能の必須アイテムです。実際にシテ方宝生流能楽師が使用する装束・能面を、児童・生徒さんに身に付けてもらい、プロと同じ感覚を体験していただきます。

START!

装束

装束コーナー

実際に能の装束を着てみよう。その重さや動きにくさが実感できます。
昔の人もこんな服装をしていたのかな？



小道具

展示コーナー

能「黒塚」で実際に使われる小道具をご紹介します！そこにはどのような意味が隠されているのかな？

私はどんな気持ちで、わくかせわを回していたでしょう？

主人公になった気分で回してみてね。

色とりどりのオリジナル



わくかせわ（杵杵輪）

…いわゆる「糸車」で、本公演で観る能「黒塚」のお婆さんはこれを使って糸をつむぐことを生業としています。

面

おもて 面コーナー

能には不可欠な面（おもて）。面をかけると、視野が極端に狭くなります。

能楽師はこの面をつけながら、セリフも話しているなんですすごいですね！

面を持つときは、横についている紐で持ってね



GOAL!

能楽師気分は味わえたかな？

あらすじ

8 能「黒塚」と謡～本公演にむけて～

本公演で鑑賞する能『黒塚』のあらすじと見どころを、簡単にご紹介します。

むかしむかしの、少し悲しいお話です…



旅の山伏・祐慶一行は、陸奥の安達原までやってきました。
あたりが暗くなってきたので、ぼつんと建つあばら家を見つけ、
そこに住むお婆さんに一晩泊めてくれるよう頼みます。

しかし、お婆さんは何故かなかなか家に入れてくれません。
祐慶達に懇願され、どうにか泊めてくれることになりました。
お婆さんは彼らを招き入れ、自分の身の上話をはじめます…。



注 目

主役のおばあさんは、前半・後半で恰好やキャラクターが変化します。
どのように変化するか、また何故変化するのかが注目ポイント！

能楽 Quiz

Q. 能「黒塚」に出てくる下の写真の小道具には、それぞれ重要な意味が隠されています。それぞれどのような使い方をされるでしょう？
また、写真に写っている人は一人のおばあさんを表していますが…顔が違いますね！
どうしてでしょう？



A. その答えは…

ぜひ本公演で！

当日、本物のお婆さんに会えるのを楽しみにしてください！



本公演でもやるよ！ 本公演では、この小道具に関するちょっとした
覚えていてね！ ゲームをしながら楽しく能「黒塚」を鑑賞します。

稽古

～能の謡をやってみよう！～



ここまでで、能楽の世界が少し分かったかな？

最後に、能楽の欠かせない要素「謡（うたい、いわゆるコーラスのこと）」を、
普段能楽師の人がお稽古しているのと同じように皆でやってみましょう。

謡と附祝言

附祝言《つけしゅうげん》

一日の能の最後に地謡方が謡う、めでたい一節

地謡方《じうたいかた》

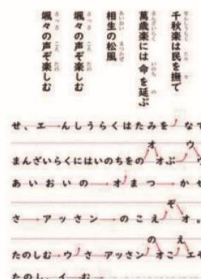
シテ（主人公）の心情を謡うコーラス隊の様な役割を担う。シテ方（能の役割の一つ）が担当する

能楽の世界では、その日の演能をめでたく舞い納めるために、最後の演目が祝言性の低いものだった場合、最後に附祝言を謡ってその日の演能をまとめることがあります。

本公演で観る能「黒塚」のお婆さんは、実は人々を喰らう鬼女であることが分かり、その壮絶な背景と共に鬼女となったお婆さんを、山伏祐慶達は祈り伏せて鎮めます。その幕切れは観る者に様々な感情を呼び起こすことでしょう。

そのため、本プログラムの公演でも、少しでも能「黒塚」のお婆さんの気持ちに、また能楽の奥深い世界を体感していただくために、本公演のフィナーレを出演者と児童・生徒さん全員の謡で飾ります。

能楽師のお稽古の様子



体育館がお稽古場に！



千秋楽は民を撫で。万歳楽には命を延ぶ。

相生の松風。颯々の声ぞ楽しむ。颯々の声ぞ楽しむ。

～能『高砂』の終曲部分より～



本公演でもやるよ！
覚えていてね！

ワークショップ終了後に、謡を収録した CD を
お渡しします。

リンク先	No.3	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
ワークショップ 実施形態の意図	●プラスの記憶を残す ワークショップでは、能はしっかりと鑑賞するもの！ではなくて、体験や目の前の実演を通して“思ったよりも楽しいな”という印象を持ってもらう宣伝効果が重要です。それにより児童・生徒さん達が、本公演に対して“早く観たいな”という期待に、必ずつながります。			
	●体験と同じく体感 能の基本姿勢や狂言の発声の体験だけでなく、能装束を羽織ってそのズシッとした重量と厚みを感じ、能面を掛けて、極端に見えづらくなる視界を感じてもらいます。“能楽師の人達は、こんな重い衣装と見づらい能面を付けて演技をするんだ”とか“昔の貴族はこんな豪華な衣装を好んで着ていたんだ”とか、自由な感想が生まれます。			
	●能楽は伝統芸能。だけど今に生きている 能楽は、日本の長い歴史の中で上流階級・武士・庶民など様々な人間が、日々繰り広げた喜怒哀楽を結晶にした壮大な舞台劇です。それは決して博物館のショーケースに展示されるものでなく、今でも各地で上演され、新しい感動を創り続けています。とかく難しいと敬遠されがちな伝統芸能ですが、観る切り口を変えることによって、楽しみ方が大きく変わります。ワークショップでは、体験・動画・体感を効果的に配して、能楽の魅力への大きな一歩を、踏み出すきっかけをご提供します。			
	●ワークショップから本公演に向けて ワークショップはワークショップのみで終了ではありません。後日の本公演をより楽しく鑑賞するための重要な入口であり、キッカケづくりです。ワークショップで体験したこと、観たことを繋げるべく、本公演までの日数を効果的に復習できる要素を企画しました。			
	<u>本公演の演能「黒塚」で使用される小道具をクイズで紹介</u> 「黒塚」では、重要な演出効果として下記の小道具が使用されます。ワークショップ時に実物を展示して、演能ではどのように使われるかをクイズとして投げかけ（能楽師が実際に小道具を使った所作を実演）、本公演への期待を高めます。 ①負柴【おいしば】 後場（演能の後半）、主役の鬼女が登場時に背負っている。老婆は山伏達に裏切られて鬼と化しているが、山伏たちに寒い思いをさせまいと、柴を集めてきたんだろうか・・・。 ②打杖【うちづえ】 後場のクライマックス。山伏と鬼女の対決シーン。鬼女が手にして山伏に打ち掛かる。			
	①負柴 		②打杖 	

リンク先

No.3

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

「黒塚」を楽しむために鍵となる小道具『杵杵輪』を皆で回す。

「黒塚」の前場(前半)では、お婆さんが『杵杵輪』という糸車を巻きながら、哀しげに謡います。この杵杵輪は、能の現行約200曲において「黒塚」だけでしか使われない小道具です。前場の前シテが杵杵輪を回しながら、鬼となった自分を嘆き悲しみ謡う一節は、能を知る人また演者にとって重要な一節ですが、能を初めて観る子供たちにとっては、退屈になりがちな場面でもあります。その退屈を、子供たちが体験することで解消します。本公演では、自分達が実際に回した杵杵輪を思い出し、前場への興味や感情移入が深まります。

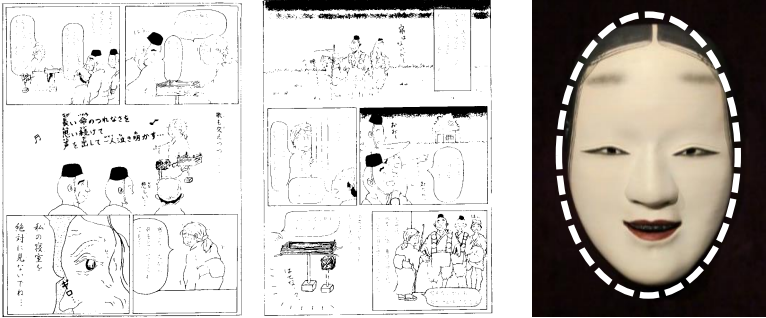
影向舎オリジナル作成の「杵杵輪」色とりどりで興味を引きます。



ワークショップ
実施形態の意図

令和2年度実施の様子



リンク先	No.3	【公演団体名	公益社団法人 宝生会	】
ワークショップ 実施形態の意図				
<u>ワークショップ終了後に、児童・生徒さん全員分の教材をお渡しします。</u> 掲載内容と目的 ①「黒塚」のあらすじを漫画化。本公演実施までに日数が空いても、分かり易く演能「黒塚」をおさらいできます。 ②謡「千秋楽」の節付ひらがな詞章と能楽師の音声を動画サイトにアップします。そのQRコードやURLなどを掲載。児童・生徒さんが学校で謡った千秋楽を、自宅でおさらいもでき、また家族で話題にもなります。 ③付録的に能面ページを掲載。切り取り線に合わせてハサミを入れると、紙製の能面が完成します。それを顔に当てると、ワークショップで体験した能面の視野の狭さを、再度体験できます。また学校でのワークショップで完結せずに、その体験や興奮を家族で共有をして、能楽の楽しさを広げてもらいます。 配布教材  公開動画  <u>ワークショップ終了後に、謡「千秋楽」の音声を収録したCDをお渡しします。</u> ワークショップでのお稽古だけでは、謡の節を習得するのは困難です。実際に能楽師が謡った音声を収録したCDを各校にお渡ししますので、給食中、昼休みなどのなるべく多くの機会に校内放送で流してください。若い人は、文字で覚えるよりも、耳で聴き口に出すのが大人より長けています。是非皆さんで本公演「黒塚」のクライマックスを飾りましょう。 				

リンク先	No.3	【公演団体名 公益社団法人 宝生会 】
特別支援学校での実施 における工夫点	平成30年度文化芸術による子供の育成事業 愛知県立岡崎盲学校さんにて ワークショップ:9月13日(木) 能面の表側を触ることは本来完全不可ですが、宝生会の協力により、彩色前の能面を多くご用意し、能面を掛けるだけでなく、実際に手で触れて、“ここが口、これが鼻”と体感してもらいました。 本公演「10月8日(金)」 通常演出のスクリーン投影を少なくし、能楽師のMCによる解説、囃子方の演奏などを中心に番組を構成しました。また休憩中は、先生方のご誘導により、皆さんに弊社設営の能楽堂に上がってもらい、距離感や舞台道具の材質を感じてもらいました。	

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	D57	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・音楽	ブロック	D	区分	A区分
公演団体名	公益社団法人 宝生会				制作団体名	株式会社 影向舎			

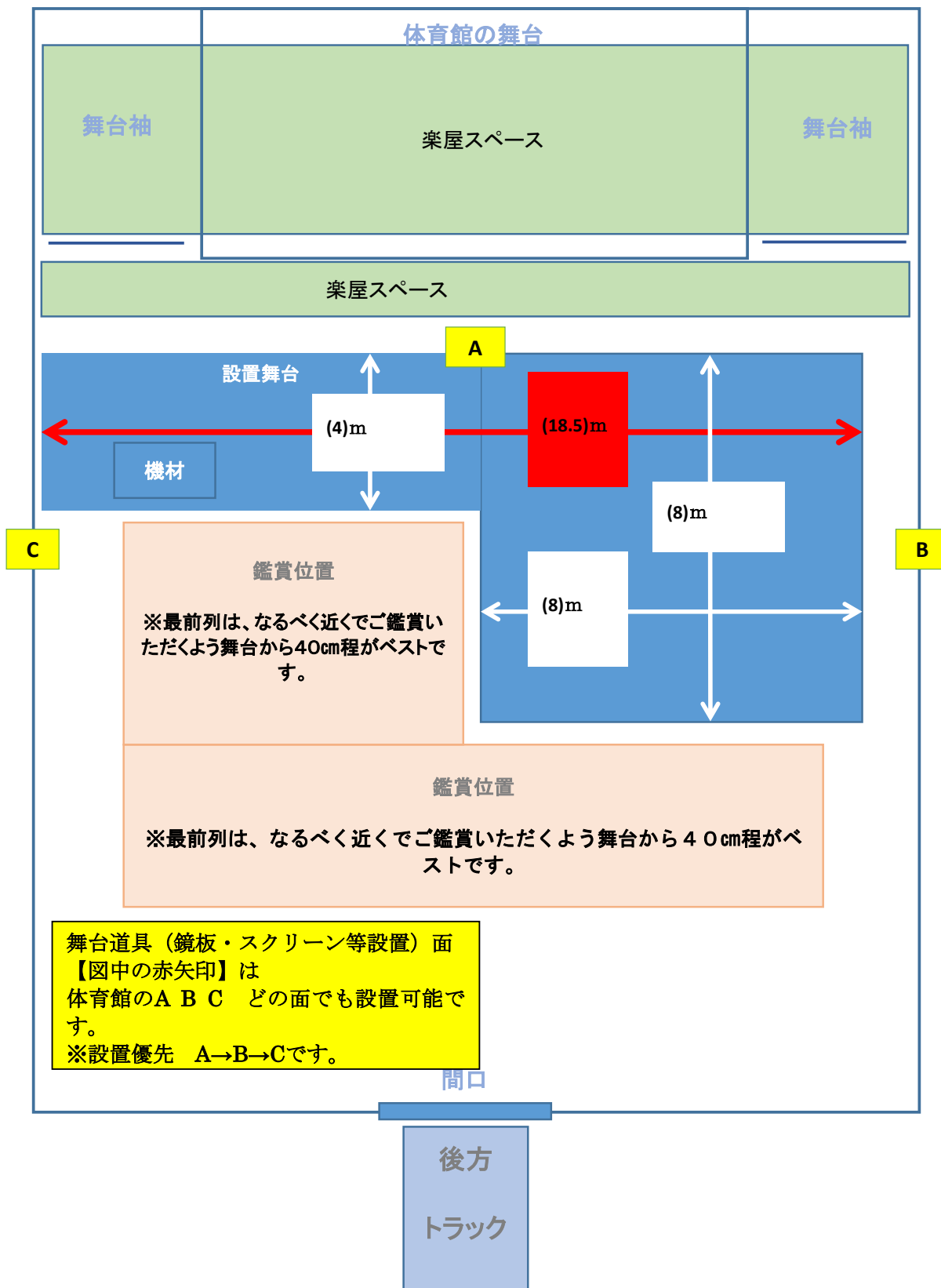
① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談
控室について	必要数 *	不要	条件		ステージを楽屋として使用しますので、原則別室は不要です。			可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			2tトラック	1台	バン	1台	不可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			2tトラック				不可
	搬入車両の横づけの要否 *			可能な限り。横付けを希望します。				可
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			30m以内				可
	搬入経路の最低条件			特段無。				可
	理由							
	設置階の制限 *			2階まで可能。				可
	搬入間口について 単位:メートル	幅	2m	高さ	2m			可
	WSIについて	参加可能人数	700名					可
学年の指定の有無 *		なし	指定学年 *				可	
所要時間の目安 単位:分		90分					可	
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数		700名					可
	舞台設置場所 *		フロア					不可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	18.5m	奥行	8m	高さ	4m	不可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			要			可
		舞台袖スペースの条件 *			ステージ及び袖を楽屋として使用			可
		緞帳 *	要		バトン *	不要		可
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				可
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		※指定位置は会場設置図面に御確認ください。				—
		ピアノの事前調律 *						—
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可				可
	公演に必要な電源容量		40A	※主幹電源の必要容量				可
	その他特記事項							応相談

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	2m	高さ	2m
搬入車両の横づけの可否		可能な限り。横付けを希望します。		
横づけができない場合の搬入可能距離		30m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



舞台設営例 A面【縦使】



250名以上のご参加の場合は、後ろの席からも観えるように、おおよそ250名までは舞台近くで直座り、それ以上は椅子の使用をお願いします。

舞台設営例 B面【横使】



楽屋スペース

